

## 令和4年度第2回八戸産学官連携推進会議 議事録

日時 令和5年2月3日（金）14:00～14:45

場所 八戸市庁本館4階 会議室A

### ○司会（八工大・高橋教授）

会議の開催に先立ちまして、本日お配りした会議資料を確認いただきたく存じます。本日の会議資料は、次第・出席者名簿・席図・資料1～資料4までございます。過不足等はありませんでしょうか。

それでは、ただいまから、「令和4年度 第2回八戸産学官連携推進会議」を開催いたします。まず、はじめに、委員の交代がありましたので事務局よりお知らせいたします。河村 忠夫委員の後任として、八戸商工会議所会頭の武輪 俊彦委員に御就任いただいております。それでは武輪委員より、一言、御挨拶をいただきたいと存じます。

### ○武輪委員（八戸商工会議所会頭）

昨年11月に、八戸商工会議所の会頭を拝命いたしました。就任して3か月余りということですが、当商工会議所の運営にあたりましては、この会議の名称にもあります八戸市をはじめ高等教育機関のほか、関係する団体の皆さんの連携を心掛けてまいりたいと考えております。どうぞ、よろしくお願いいたします。

### ○司会（八工大・高橋教授）

ありがとうございました。それでは、議事に入りますので、熊谷市長に進行をお願いいたします。

### ○熊谷会長（八戸市長）

それでは、しばらくの間、議長を務めさせていただきます。まず、案件(1)「副会長の選任について」、事務局から説明をお願いいたします。

### ○事務局（八学大・田中教授）

大変恐れ入りますが、着座にて説明させていただきます。それでは、副会長の選任について御説明申し上げます。お手元の資料1「八戸産学官連携推進会議 設置要綱」を御覧願います。第3条「組織」のところを御覧下さい。第1項は、推進会議の構成員は関係機関の長とすることを規定しており、これに基づき、今回より武輪会頭に御参加をいただいております。

次に、第3項を御覧願います。ここでは副会長にすることが規定されており、その選任にあつては、構成員の中から会長が指名する者をもって充てるとされております。これまで、副会長は商工会議所の河村前会頭に務めていただいておりますため、現在は、副会長が空席となっております。本日は、本会議の会長である熊谷市長より新たな副会長を御指名いただきたいと存じますので、よろしくお願いいたします。事務局からの説明は以上でございます。

**○熊谷会長（八戸市長）**

はい。それでは、副会長につきまして私の方から指名させていただきます。地域経済やまちづくりなどの幅広い分野において、豊富な知識と御経験をお持ちである武輪委員に副会長をお願いしたいと思いますが、いかがでしょうか。

《異議なしの声》

**○熊谷会長（八戸市長）**

ありがとうございます。それでは、副会長は武輪委員をお願いいたします。どうぞ、よろしくお願いいたします。

**○武輪委員（八戸商工会議所会頭）**

よろしくお願いいたします。

**○熊谷会長（八戸市長）**

続いて、案件(2)「令和4年度 第1回推進会議の議事録について」、事務局から説明をお願いします。

**○事務局（八学大・田中教授）**

それでは、令和4年度第1回推進会議の議事録について、御説明申し上げます。資料2の「令和4年度第1回八戸産学官連携推進会議 議事録」をお手元にお配りしておりますが、本日は要点のみの説明とさせていただきますので、内容につきましては後ほど御確認をいただきたいと思っております。

前回の議事におきましては、「令和3年度 進行管理指標集計結果について」、「八戸地域学について」の2項目に関して、委員の皆様から御議論いただきました。令和3年度進行管理指標結果については、「観光入込客数」や「プロスポーツ観客数」など、コロナ禍で数値が減少しているものもございました。今後、コロナ前後での数値の比較等を分析しながら、引き続き数値の動向を注視していくことといたしました。

また、八戸地域学については、各校共通の講義として、令和4年度は全3回の講義を実施すること、講師や場所、学生の聴講手法等について御説明申し上げ、様々御発言をいただきました。さらに、第1回目の講義に合わせて開講セレモニーを行うことも、御了承いただいたところでございます。事務局からの説明は以上でございます。

**○熊谷会長（八戸市長）**

ただいまの説明に対して、御質問、御意見等はございませんでしょうか。それでは、以上でこの案件は終わります。

続きまして、案件(3)「八戸地域学の開催実績について」、事務局から説明をお願いいたします。

**○事務局（八学大・田中教授）**

それでは、八戸地域学の開催実績について、御説明申し上げます。資料3を御覧下さい。まずは、「1. 講義実施概要」ですが、資料に記載のとおり第1回目の講義は熊谷市長に、第2回目は坂本学長に、第3回目は塚原副会頭に講師を務めていただき、それぞれのテーマにて全3回の講義を実施いたしました。

次に、「2. 各校の動画視聴日」については、表に記載のとおり、各校の講義の中で学生へ動画を視聴していただいたところでございます。

次に、「3. 学生アンケート結果」についてですが、別紙ということで、1～11ページにかけて、3回分のアンケート調査結果をまとめております。1ページ目は、第1回目の熊谷市長の講義となりますが、グラフを御覧いただいて分かるのとおり、「講義内容は興味深いものでしたか」との問いに対し、強く思う24.4%、思う60.4%と、80%を超える学生が興味深いと回答いたしております。また、「この講義によって八戸に対する興味・関心は増しましたか」との問いに対して、強く思う21.3%、思う64.6%と、こちらも85%を超える学生が八戸に対する興味・関心が増したと回答しております。

次に、2ページ目を御覧下さい。こちらは、講義に対する質問があれば記載してもらっておりますが、この質問に対する回答については、後ほど、それぞれの講師の担当機関において回答を作成し、各校にお知らせしたいと考えておりますので、よろしくお願いいたします。

次に、3ページ目を御覧下さい。こちらは、講義で聞いてみたい事柄について自由に記載してもらっております。様々な御意見がございますので、今後の講義テーマの選定の際に参考としていきたいと思っております。

以降、6ページ目からは坂本学長の第2回講義、9ページ目からは塚原副会頭の第3回講義についてのアンケート調査結果となっておりますので、後ほど御覧いただければと思います。事務局からの説明は以上でございます。

#### ○熊谷会長（八戸市長）

ありがとうございます。ただいまの説明に対して、御質問、御意見等ございますでしょうか。

それでは続きまして、案件(4)「令和5年度事業計画（案）について」、事務局から説明をお願いいたします。

#### ○事務局（八学大・田中教授）

それでは、令和5年度事業計画（案）について、御説明申し上げます。資料4を御覧下さい。まずは、「1. 八戸地域学について」ですが、先ほども御説明申し上げましたが、今年度3回の実施による学生へのアンケート結果によると、講義内容が興味深いと回答した学生や、八戸市への興味・関心が増したと回答した学生が約8割と多く、学生にとっては大変有意義な講義であったことが分かることから、令和5年度以降も引き続き実施していきたいと考えております。実施方針といたしましては、八戸地域学で15コマの講義が出来るように、既に完成している3本の動画も含め新たな講義動画を積み上げていきたいと考えております。講義内容によりましては、数値等、様々な情報が古くなる場合もございますので、その際は、動画の撮り直し等も含め検討してまいりたいと考えております。令和5年度の八戸地域学については、講義内容が同じ分野の講義に偏らないように、全15コマの全体計画を描きながら進めていく必要があることから、まずは、事務局会議にて全体計画を作成した上で、令和5年度の講義テーマや講師の選定を進めていきたいと存じます。

次に、「2. その他の取組案の検討について」ですが、令和2年3月に策定いたしました、産学官連携による八戸未来創造中長期計画の推進を図るため、同計画で掲げた目標達成に向けて、八戸地域学のほかに、産学官が連携した具体的な取組案についても協議してまいりたいと考えております。このことについての事務局からの説明は以上でございます。

### ○熊谷会長（八戸市長）

ただいまの説明に対しまして、御質問、御意見等はございますでしょうか。無ければ、これまでの案件説明も含めまして、全体を通して何か皆様方から御意見等をいただきたいと思っております。 それでは、はじめに、水野委員からお願いいたします。

### ○水野委員（八学大学長）

はじめに、八戸地域学が無事スタートでき、しかも初回は熊谷市長、続いて坂本学長、そして塚原副会頭と講師になっていただいて本当にありがとうございました。受講した学生に対しても非常に反響が大きかったということで、大変嬉しく思っております。今後について、事務局から提案があった3本を軸に15回ということですので大学だと2単位、そこを目がけて積み上げていく方針で理解いたしました。受講者数の表では、八学大は100人未満ということで、学内の状況ですと1クラスが受講してきたところだと思います。今後は、この今年度の取組を踏まえて、学内のカリキュラムの中でどういうふうにとり込んで単位化等に結び付けていくかというのを、今後学部内で議論させていただいて、また御報告させていただきたいなと思っております。加えて、八戸学院は系列校も持っていますので、この八戸地域学を共有させていただきながら、可能であれば高校生への学びに発展できるかどうかということも、法人内で議論できればいいなと、今思った次第です。

2点目は、今後、この推進会議の中での議論テーマとして、地域の将来ビジョン、産学官が連携して具体的な取組案について検討を始めるということで、この提案に対しても賛同させていただきたいなと思っております。以上です。

### ○熊谷会長（八戸市長）

ありがとうございます。それでは次に、杉山委員お願いいたします。

### ○杉山委員（八短大学長）

八戸地域学につきましては、本当にありがとうございました。1回目と2回目の講義を視聴させていただいたのですが本当に素晴らしい内容で、本短大は来年度からカリキュラムで「地域文化論」というのを設けるわけですが、そのコンテンツとして使わせていただきたいと思っております。

ただ、ちょっと心配なのは、本当に中身が盛りだくさんというか、皆さん60分の中に本当にたくさん詰め込んでいただいている、素晴らしい内容なのですが、短大生が消化しきれないだろうかということも少し懸念しております。次にもし撮り直しとかがあるときには、詰め込みたくなる性があると思うのですが、もうちょっと絞って学生が消化しやすいように、例えば、2回に分けるのは厳しいかもしれませんが、坂本先生のお話ですと歴史の前半・後半と各1本ずつにするとか、そういう形にさせていただけるとより有り難い感じもいたしました。すみません、勝手な感想です。

それから、地域文化論のカリキュラムを立ち上げるのですけれども、地域に親しむためにいろんな歴史とか文化などの知識を入れると同時に、やっぱり学生自身が体を使って地域に出ていくことが凄く大切だと思います。元々、ボランティアとかそういうのは盛んだったのですが、このところコロナで学生のボランティアは全部中止にしていますが、地域文化論の実践講座というのを別科目で立てまして、これまで学生指導の流れの中でボランティアとか八戸小唄流し踊りに短大はずっと参加してきたのですけれども、その流し踊りとかをカリキュラム外で行っていたんですね。それを地域文化論の実践講座の中に組み入れて、単位化するようにしました。そういう形で、令和5年度からはコロナ対

応とかは変わっていくとは思いますが、是非、学生が街に出ているんなことが出来るようになっていくと嬉しいなと思っております。以上です。

#### ○熊谷会長（八戸市長）

ありがとうございます。続きまして、圓山委員お願いいたします。

#### ○圓山委員（八戸高専校長）

市長の御講演はじめ素晴らしい内容だったと思っております。本校の視聴者数が少ないのは、選択科目の中の学生が聞いているということで、全学生のカリキュラムで組めずこのような形になったということで、今後の課題と考えています。この八戸地域学の講義については、やはり学生にだけ聞かせるのはもったいないなと思っております。例えば、先ほど杉山先生からもありましたが、60分まるまるだと市民の方もなかなか聞けないので、少し項目ごとに短時間に分けて補足説明を入れながら、YouTubeなどで市民の方にも興味のあるテーマだけでも聞いていただくというのも1つの方法と考えてございました。

それから、もう1点は来年度に向けてということになると思いますが、先ほど言ったコマ切れのYouTubeなども含めて市民の方にお知らせしたり、いろんところで先生方も使えるようなものをしていただくというのも1つ課題でございます。もう1つは、産学官連携の中で何ができるかということのを来年度少し考えていただく。例えば、観光振興だとか水野先生が非常に頑張っておられる水産などを絡めながら、どのようにしていくのかという方向性もお考えいただけたらどうかと思っておりました。以上でございます。

#### ○熊谷会長（八戸市長）

ありがとうございます。続きまして、坂本委員お願いいたします。

#### ○坂本委員（八工大学長）

私の方は、講師を担当した一人として、いろいろ感じたこともございまして、その辺も含めて八戸地域学に関してお話ししたいなと思っております。まずは今日の御報告にもありましたように、80%以上とか90%近くの方が講義に興味を抱いていただいたということと、地域に関心を持つことが出来たということで、目的は果たせたかなと思っております。若者の地域定着に、1つ貢献することが出来たのではないかと感じておりました。私も自分でこういうことを話そうかなとある程度定めていたのですが、実際、自分の担当が迫ってきたら気合が入りまして、あちこち動き始めて新たな調査を始めたところ、非常に八戸愛がさらに深まりました。深まれば深まるほど人に伝えたいくなる。その、人に伝えたいという気持ちが学生さんに伝わるだろうという観点で取り組んだものもあって、私ごときが八戸藩とかやっても、八戸市内には多くの知見を持った方がいるわけですので、私「こういうのを知っているかい、君たち」みたいなスタンスだと全然だめだと思っておりました。実際、自分がどういうふう知識を展開して興味を持って次に結び付けていったかということが一番伝えたくて、それをストーリーの中に物語的に自分で撮ってきた写真を入れて誘導していったということが、自分自身としてもワクワクしながら話が出来たかなと思っております。それで、レポートにそれが如実に表れていたのが、「あ、やったな」と思いました。学生さんたちが「八戸って意外と面白いじゃない」、「よし、今度は調査してみよう」そういう気持ちになれたということ、こういう人をたくさん増やすということが、この地域の活性化につながると考えていますので、学生さんたちだけで

はなくて今回は市民の方も若干来ていただいたのですが、多くの八戸のファンを増やすべく、こういう活動を続けていければいいかなと思っています。もちろん、学生さんへの教育、それから先ほど先生方からお話がありましたように、市民の方にも聞いてもらいやすいような形でメニューを組んで出せばいいかなと思っていますのでございます。

もう1つだけ蛇足的に付け加えておきたいのが、私もいろいろ調査して講義を構築する中で、これ面白いなと調べていくといろんなことが見えてくるのですが、そのときに、「これ面白いでしょ」ということを伝えるのはいいのですが、もしかしたら、市民の方がいっぱいそれをお持ちなのではないかなと。様々なところでパブリックコメントですとか、市長さんはコミュニケーションをやる場面というのがあると思うのですが、それを含めて市民の一言、囁きみたいなものをどこかで集結させたい。これは書籍等を見れば分かる話でもあります、そうではなくて、市民の思いの中で生まれる興味をさらりと拾ってみたいという気持ちが生まれました。是非、そういう形で市が発展していけばいいかなと思っていますので、また今後ともどうぞよろしく願いいたします。

#### ○熊谷会長（八戸市長）

ありがとうございます。それでは次に、武輪委員お願いします。

#### ○武輪委員（八戸商工会議所会頭）

八戸地域学の資料を拝見しまして、自由記述欄が凄く多く出されているというのは講義の一環だからというのものもあるのかもしれませんが、素晴らしいなと思って読んでおります。今、全部目を通していませんが、大変参考になる内容があるのではないかなと思っています。中心街の賑わいづくりには学生さんはじめ若い方の力が有効だとか、それがポイントだと思っておりますので、もし出来れば、学生さんたちがこういうことをやりたいということを会議所なり他の団体なりでサポートして実現化が出来れば面白いんじゃないかと思っておりますので、この資料を参考にさせていただきたいと思っております。以上です。

#### ○熊谷会長（八戸市長）

ありがとうございます。最後に、私の方から八戸地域学について申し上げさせていただきますが、先ほど杉山委員からのお話がありまして、1時間という中で盛りだくさんだったという意見が、学生の中からも感想として出ておりまして、確かにちょっと詰め込み過ぎたなという反省はいたしております。ただ、武輪委員からもお話いただきましたとおりに、この講義内容に関する質問や今後講義で聞いてみたい事項について、かなり記述していただいているというのは、これはやっぱり1つの成果ではなかったかなと思います。これは1つ1つ丁寧に返す必要があると思いますし、講義で聞いてみたい事項についての自由記述につきましても、こちらの方でも参考になる意見がいろいろありますし、何か返せるものがあれば返して、先ほどのコミュニケーションではないですが、対話をしながら若者の関心をより惹きつけて地元定着につなげていく必要があるのではないかなと思っています。また新年度も継続するということになりますので、少し手間は掛かるかもしれませんが丁寧な対応も必要ではないかなと思っていますので、よろしく願いいたします。また、皆様方の引き続きの御協力、よろしく願いいたします。私からは以上です。

それでは最後に、「その他」ですが、皆様から何かございますでしょうか。

### ○武輪委員（八戸商工会議所会頭）

はい。現在、八戸商工会議所として「はちのへ活性化プロジェクト」という名の下に、3つの委員会の組織を作る準備をしております。その構成としては、会議所の議員・会員のほかに八戸市の皆様、高等教育機関の方のほか、団体の方も参画していただきたいというふうに考えておるところでございますので、それについて説明をするお時間をいただきたいと思います。

### ○熊谷会長（八戸市長）

はい、よろしく願いいたします。

### ○武輪委員（八戸商工会議所会頭）

それでは、説明につきましては、塚原副会頭兼専務理事から述べさせていただきます。

### ○塚原副会頭兼専務理事

お手元にお配りしております資料を参考に、お話をさせていただきたいと思います。商工会議所には常設委員会というのが元々あったのですが、全てが議員の方々を対象にした委員会でした。それを今回撤廃しまして、今一番起きている問題というものを考えた結果、「八戸商工会議所はちのへ活性化プロジェクト」の中に3つの委員会を準備いたしました。私自身の八戸地域学でもお話をいたしました。私がVISIT八戸という観光・物産の団体の理事長を務めて4年目に入りました。そこで感じたことは、観光客等が八戸駅に来て、宿泊する方の7割以上が中心街、飲食するのも中心街。ということは、観光客等を集めるのがVISIT八戸の施策ですが、その方々が中心街に行ったときにリピーターになってくれるような対応でなければ次につながらないと思ひまして、「中心街委員会」、「観光委員会」、「取引拡大委員会」は、それに伴って新しい事業が出てくるのではないかと考えて作っております。今、商工会議所6階に「株式会社 まちづくり八戸」という三セクがあります。まちづくり八戸というのは、中心街活性化のために作った会社でありまして、現在、武輪会頭が社長、私が副社長ということになっています。今はグランドホテルの前にあります「番町ヒルズ」という市営住宅の管理等をやっておりますが、まちづくり八戸を中心として中心街のことを今後はやるべきではないかと考えております。2枚目の方のA4の横版を見ていただきたいのですが、どういう人を入れたいかという案を入れさせていただいております。中心街委員会というのは、中心街の各地区の代表の方に入っていたかなければいけないのですが、今までのような議員に商店街の方が必ずやるということではなくて、市民全体で中心街のことを考えましょうということ。商店の店主の方のための中心街ということではなくて、市民全体で考える中心街でなければいけないのではないかとということで、「ワーキンググループ」という表現になっております。ワーキンググループという意味合いは、日中の会議は学生や高校生はなかなか出られないので、土・日にワーキンググループということで大学生・高校生等、若い方々に集まっていただいて、その座長には、金入さんをお願いをしました。若い人たちの意見をまとめるということをワーキンググループの方でしていただいて、それを中心街委員会へ上げていただくという考えです。

観光委員会というのは、市内へ観光に来た方、ビジネスで来た方のほとんどが中心街に泊まる確率が高い。その方々に対して、今は残念ながらホテル側から情報提供が出来ていない。VISIT八戸では定期的に全国チェーンのホテルに集まっていただいて、宿泊者の数とかいろんなものをいただいております。そのときに言われるのは、中心街が何を行っているのか単発の情報しかないということで、全体で何をやっているのかというのを作っていただきたいということをおっしゃっております。その辺の

必要なことをまとめていかなければいけないということで、VISIT八戸と商工会議所と既に1回目をやりましたが、定期的に集まってお互いの情報交換をすること、だぶって同じ事業をしないように一緒にやるということ、ミーティングしながら進めていきたいと考えております。それに伴いまして、取引拡大委員会ということで、新たなお土産品などをこちらで考えられるような仕組みを作りたい。今、これは縦の委員会なのですが、全体を私自身が見ようと思っているので、横串をささないという情報が共有されないというふうに思っております。八戸地域学をやった後、先ほどの坂本学長と同じで、自分が話したことで、中心街を歩いてみたり、泊まっている方を1時間で観光させたりしようと思ったら何ができるかということ、試験的にVISIT八戸と仙台のDMO組織と組んで、3900円というお金をいただいて、10人ぐらいの人数で八戸に来る方を案内するというのをやってみました。点数が一番高いのが、八日町にあります「八鶴」。「ほこるや」という場所を今お店にしているので、そこでお酒を買ったり試飲したり、裏側に安藤昌益の記念館というか資料館もあります。その後、おがみ神社に連れて行きますが、買ったお酒に坂本宮司さんが魂入れてくれるんですよ。おがみ神社さんが今綺麗になったので、おがみ神社さん自体の三社大祭の説明をやっていただいたりしています。あと、はっちとかマチニワ、ブックセンターを案内するとか、「さんぽマイスター」というのがVISIT八戸と一緒にやっているのですが、中心街で案内するコースを私たちの年代が考えるのと、学生さんたちが考えるのではきっと違うかもしれませんし、そういうコースも作ってみたいなと思っています。商工会議所側の方々のお店が多いので、そちらの御意見を聞いて一緒にやらないとできないものかと思っておりますので、今現在は、この3つの委員会を新規に立ち上げて意見を吸い上げ、そこにどうしても学生さんたちの意見を入れてまいりたいと思っております。美術館の周りには八戸学院さんも工業大学さんも関連する場所があるので、一緒に出来る方法を考えていきたいと思っております。資料では、工業大学さんとか八戸学院さんで、名前を入れてある先生や入れていない先生がいらっしゃるのですが、これから交渉したいと思っておりますし、国立高専さんの場合は授業があるので入れないというのではなく、入れることが可能なかどうかも含めて御相談をさせていただければと思っております。新聞の次のページに、市長もお出になっている「若者マチナカ会議」というのがこの前ありました。やはり、若い人たちもまちの将来を語ったりする場があるわけで、その意見というのも吸い上げられるような仕組みになればと思っております。

最後にもう1枚、2月24日に松山から来ていただくのですが、株式会社まちづくり松山というところの社長で、下の方にプロフィールが付いていますが、ゴールドマン・サックスにいて、その後御実家に戻られています。私も松山に行ってきました。41歳という年齢で、やっていることは全てがデジタルなんです。最初聞いたときには、八戸ですと共通商品券というのがあったのですが、向こうは「まちペイ」という地域通貨、地域で使える、その中で囲い込むことをやっております。市長の公約にもデジタルというものもありますし、私どもの商工会議所もデジタル化に向けていろいろ進めておりますので、将来的にデジタルのことを私どもの年代が語っても内容が良く分かりませんが、学生さんたちに入っていて話をしなければなかなか出来ないのではないかと思っていますので、まちづくりというのは学生の力がないと出来ないということを私たちは確信しているので、なんとかお力を借りながら、この団体でやっていけるものがあればやらせていただきたいと思っております。以上です。

## ○熊谷会長（八戸市長）

ありがとうございました。ただいまの説明について、何か御意見ございませんでしょうか。



**○水野委員（八学大学長）**

今の御提案に対して、これから個別にいろいろ学生を動員したり教員が関わったりというのは、御相談させていただけるという理解でよろしいですか。

**○塚原副会頭兼専務理事**

はい、そうです。今、既に声を掛けているところもあるのですが、今日お会いするのが分かっていたので、まず各校長先生方に御理解いただいて、この後本格的に動こうと思っておりますので、よろしくお願ひしたいと思ひます。

**○水野委員（八学大学長）**

よろしくお願ひします。

**○熊谷会長（八戸市長）**

ありがとうございます。他に何かございませんか。それでは、事務局につきましては本日の各委員の意見を踏まえつつ取組を進め、次回の会議にて進捗等の報告をお願ひしたいと思ひます。それでは司会へ進行をお返しします。

**○司会（八工大・高橋教授）**

はい、ありがとうございました。本日の各委員の皆様の御意見等を踏まえ、今後の取組を進めていきたいと思ひます。次回の推進会議の予定ですが、令和5年10月頃の開催を予定しております。開催が近づきましたら改めて御案内差し上げますので、どうぞよろしくお願ひいたします。

それでは、これをもちまして、「令和4年度 第2回八戸産学官連携推進会議」を終了いたします。本日はありがとうございました。